

伊賀市障がい者福祉計画策定のための
アンケート 調査結果報告書
【速報版】

平成 26 年 1 月

I 調査の概要

「第3次障がい者福祉計画」の策定にあたり、障がいのある方の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、意見などを把握し、計画策定の基礎資料することを目的に、平成25年11月～12月にアンケート調査を実施しました。

1. 調査の方法

①調査対象地域 伊賀市全域

②調査対象者

障がい者調査	平成25年11月1日現在、市内在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者の中から2,785人を無作為抽出
障がい児調査	平成25年11月1日現在、市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者全員
その他市民調査	平成25年11月1日現在、市内在住の障害者手帳を持たない15歳以上の市民の中から1,650人を無作為抽出

③調査期間 平成25年11月29日～平成25年12月16日

④調査方法 調査票による記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査

2. サンプル数及び有効回収数

	A 配布数	B 不達 (宛先不明)	C (A-B) 有効 配布数	D 回収数	E 無効 回収数 (白票)	F (D-E) 有効 回収数	D/C 回収率	F/C 有効 回収率
障がい者	2,785	30	2,755	1,362	4	1,358	49.4%	49.2%
障がい児	215	2	213	91	0	91	42.7%	42.7%
その他市民	1,650	32	1,618	728	0	728	44.9%	44.9%

3. 注意事項

- ① 以下のページでは、「障がい者調査」を『障がい者』、「障がい児調査」を『障がい児』と表しています。
- ② 以下のページにおける比率の掲載については、小数点第2位で四捨五入していることから、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合の比率は、有効回答数に対する割合を表示しています。
- ③ 「無回答」は回答していないもの、「無効回答」は選ぶべき選択肢の数や答え方を間違っているなど、集計上有効でない回答を示しています。
- ④ グラフ及び表のN数 (number of case) は、有効標本数 (集計対象者総数) を表しています。設問中のSA (Single Answer) は単数回答、MA (Multi Answer) は複数回答をそれぞれ示しています。

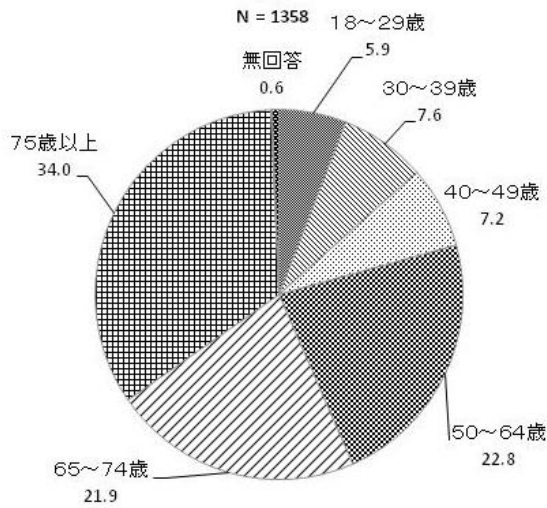
II 調査結果（抜粋）

回答者の属性等について

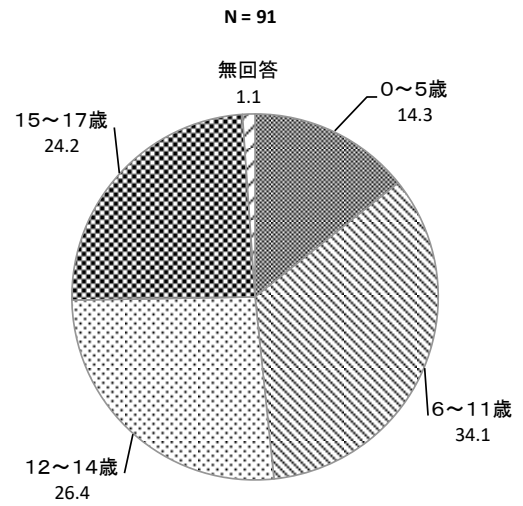
問 あなたの年齢は、平成25年11月1日現在、満何歳ですか。(SA)

『障がい者』問2 『障がい児』問2

【障がい者調査】



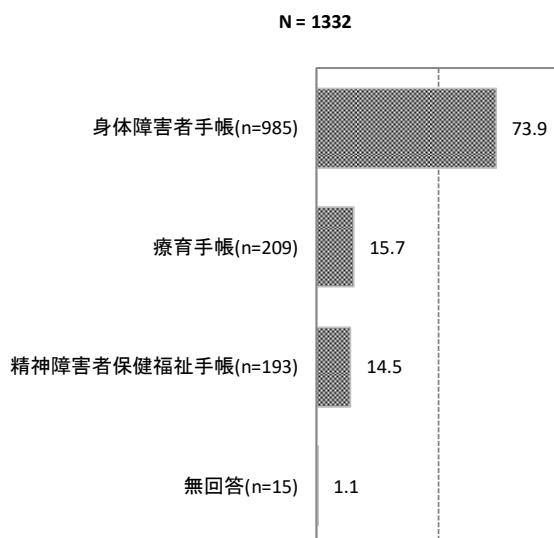
【障がい児調査】



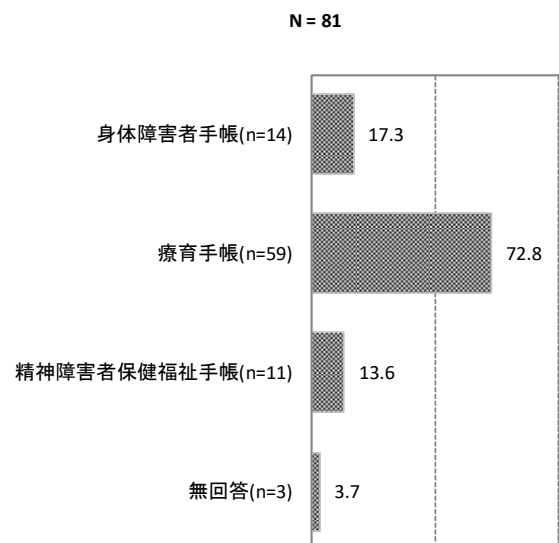
問 あなたの持っている障害者手帳の種別は次のどれですか。(MA)

『障がい者』問4 『障がい児』問4

【障がい者調査】

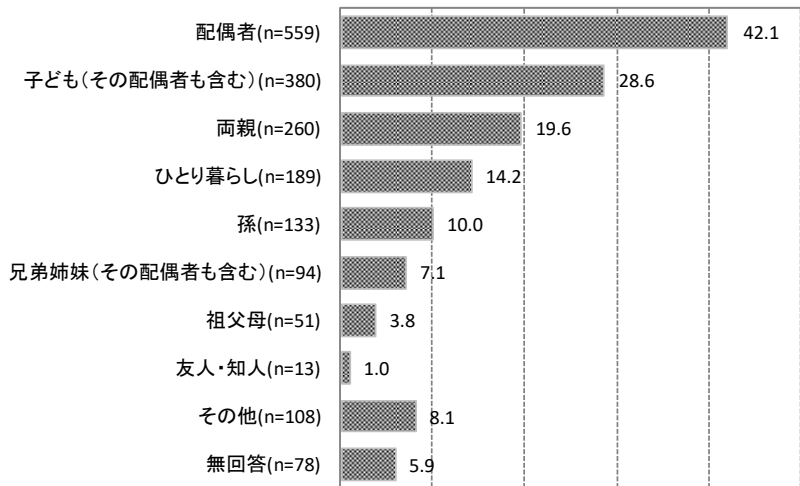


【障がい児調査】



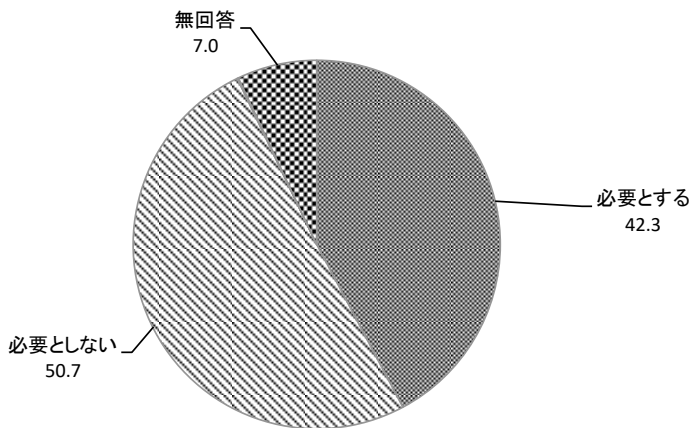
問 あなたは、現在だれと暮らしていますか。(MA) 『障がい者』問 8

N = 1327



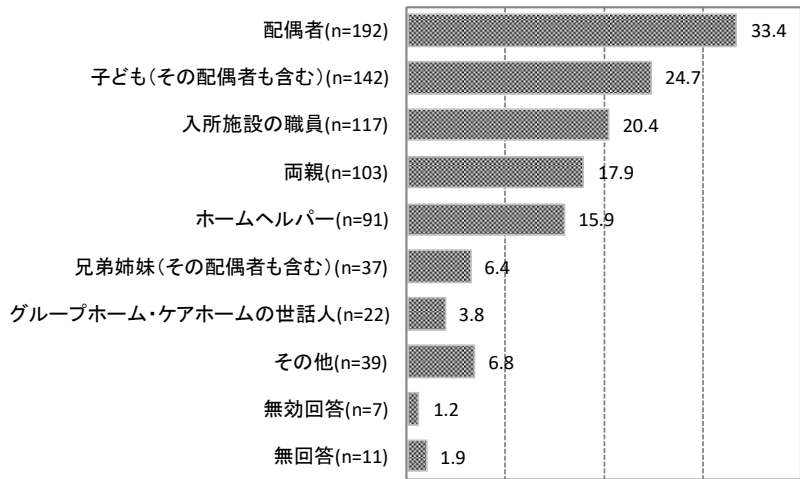
問 あなたは、日常生活の中で介護または介助を必要としますか。(MA) 『障がい者』問 15

N = 1358



問 あなたの介護・介助者はだれですか。(MA) 『障がい者』問 16

N = 574

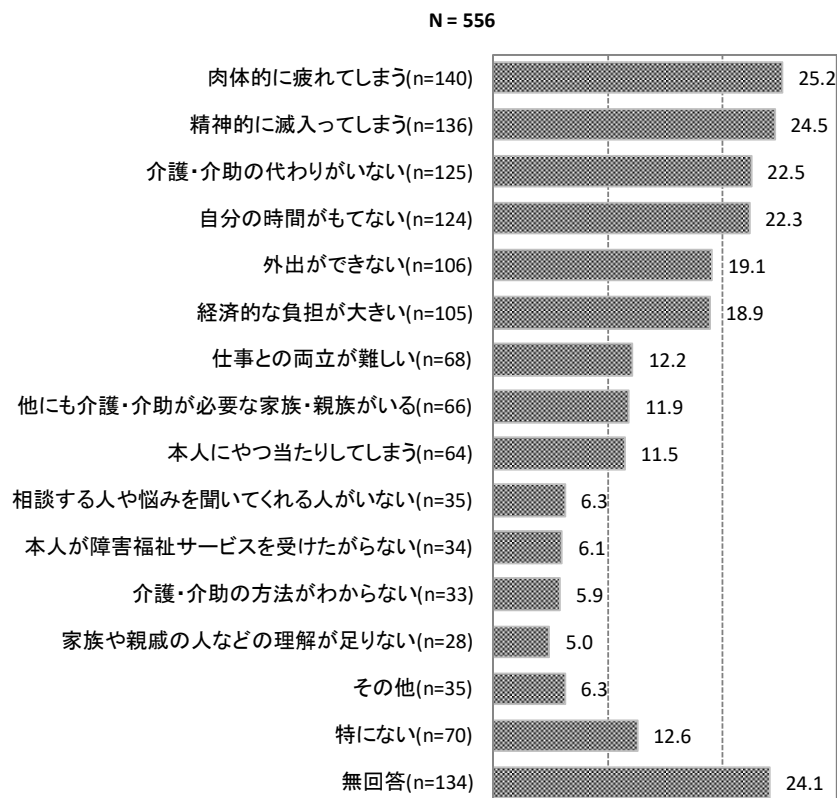


問 介護・介助者の方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい者』問 19

- 「障がい者」では『肉体的に疲れてしまう』、『精神的に滅入ってしまう』がともに約 25%に上り、『介護・介助の代わりがない』、『自分の時間がもてない』がそれぞれ 20%を超えて続いています。介護・介助者に負担が集中していることがうかがえます。
- 障がい種別でみると、「身体」では『肉体的に疲れてしまう』が最も多く、「知的」、「精神」では『精神的に滅入ってしまう』が最も多くなっています。また「精神」では『経済的な負担が大きい』が他に比べて多く、4割を超えています。

【障がい者調査】

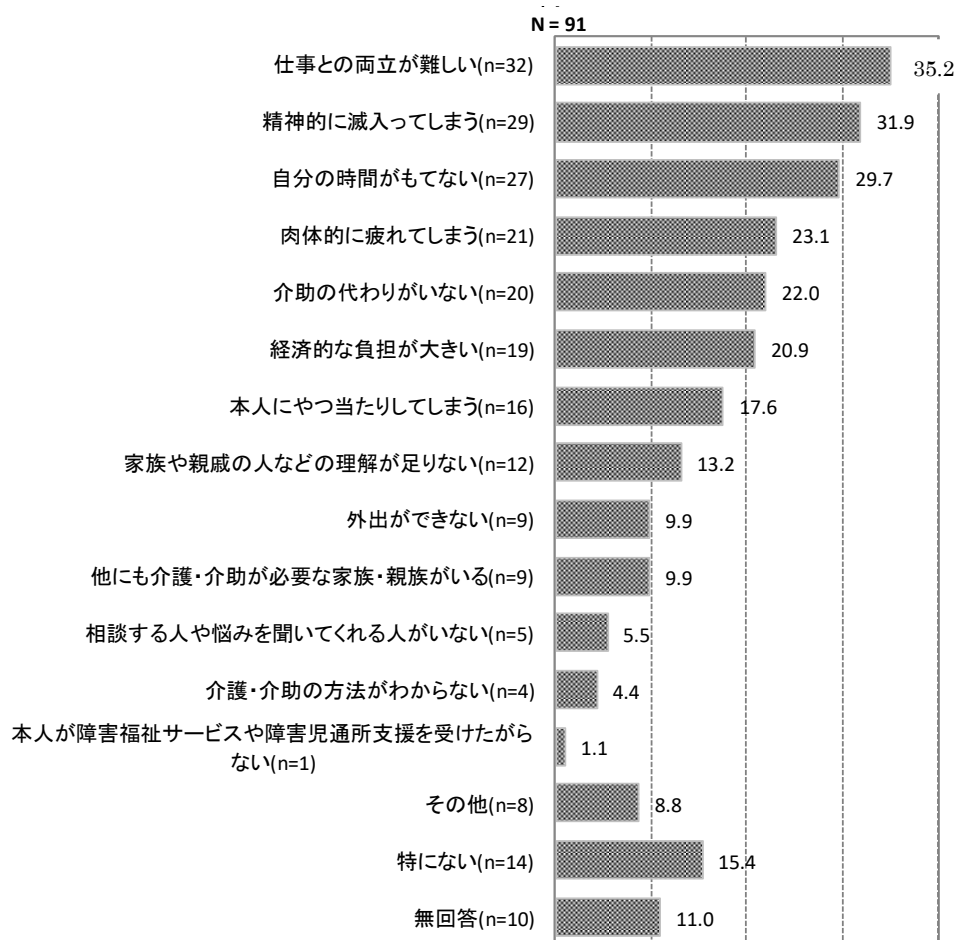


問 主に介護・介助される方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい児』問9

- 「障がい児」では『仕事との両立が難しい』が最も多く、『精神的に滅入ってしまう』、『自分の時間がもてない』と続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」、「知的」では『仕事との両立が難しい』、「精神」では『自分の時間がもてない』がそれぞれ最も多くなっています。次いで、すべての種別で『精神的に滅入ってしまう』が多くなっています。

【障がい児調査】



外出の状況について

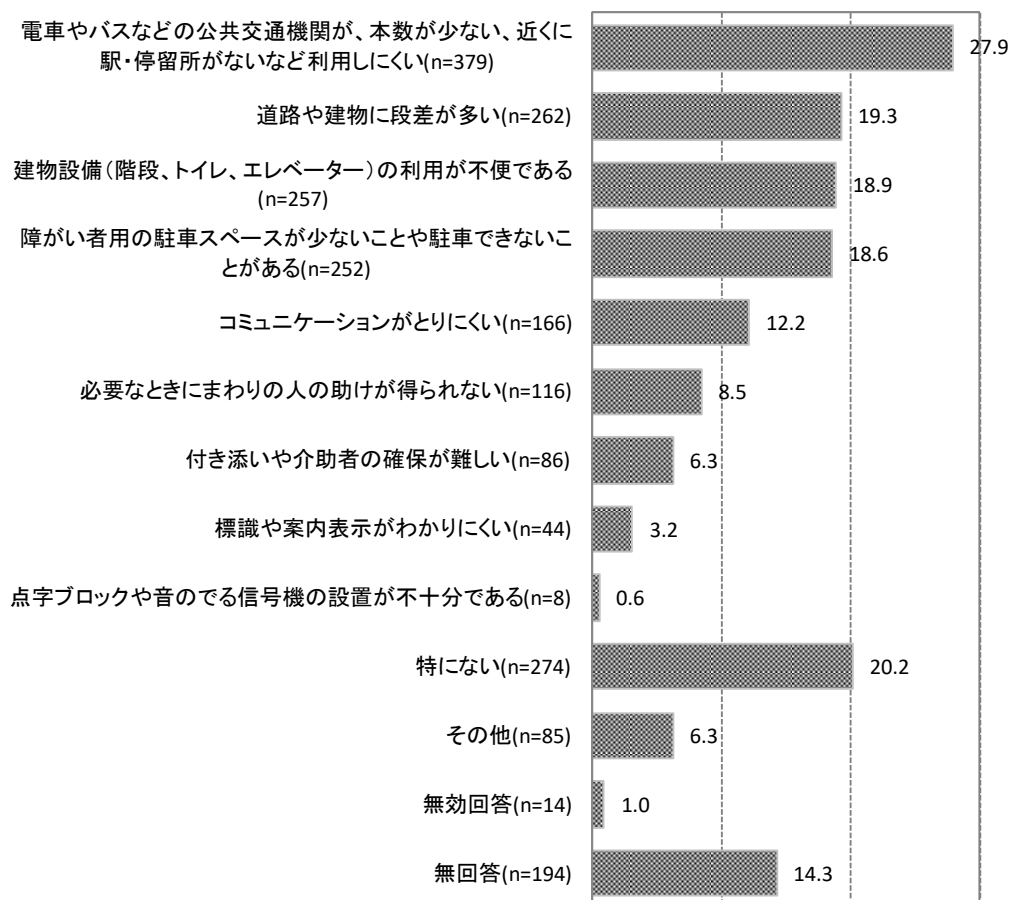
問 あなたが外出する時に、困ることや不満に思うことは何ですか。(MA)

『障がい者』問 23

- 「障がい者」では『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が最も多く、『道路や建物に段差が多い』、『建物設備（階段、トイレ、エレベーター）の利用が不便である』と続いています。一方、『特にない』と答えた人も20.2%います。
- 障がい種別でみると、すべての種別において『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が最も多くなっています。次いで、「身体」では『障がい者用の駐車スペースが少ないことや駐車できないことがある』、「知的」、「精神」では『コミュニケーションがとりにくい』が多くなっています。

【障がい者調査】

N = 1358



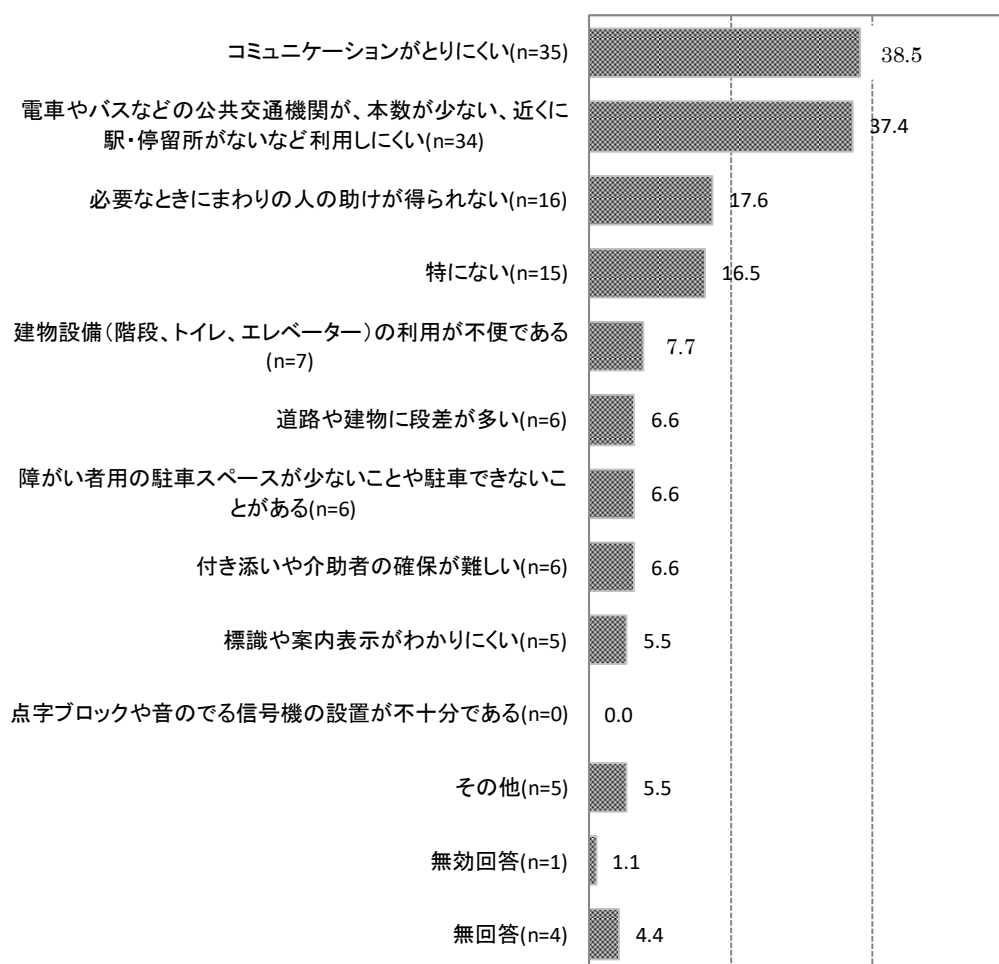
問 あなたが外出する時に、困ることや不満に思うことは何ですか。(MA)

『障がい児』問 13

- 「障がい児」では、『コミュニケーションがとりにくい』が最も多く、『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』、『必要なときにまわりの人の助けが得られない』と続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」、「精神」では『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が、「知的」では『コミュニケーションがとりにくい』がそれぞれ最も多くなっています。

【障がい児調査】

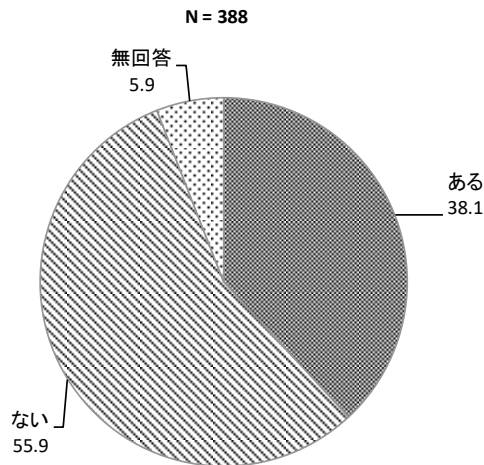
N = 91



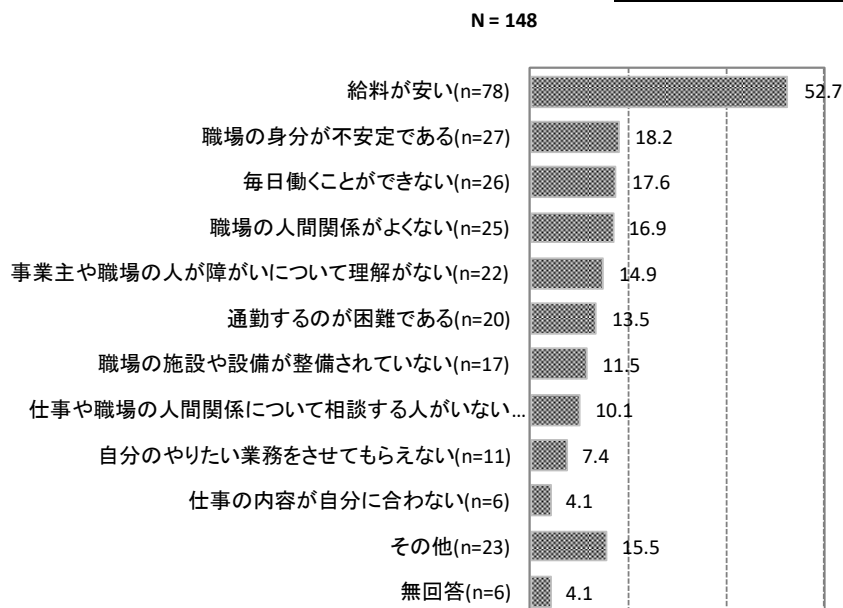
就労の状況について（障がい者調査のみ）

- 現在の仕事について不安や不満が『ある』と答えた人は約4割に上っています。そのうち、5割以上が『給料が安い』と答え、次いで、『職場の身分が不安定である』、『毎日働くことができない』と続いており、就労に対して安定感が得られていない人が多いことがうかがえます。
- 障がい種別でみると、「精神」で『ある』が約6割に上り、「身体」「知的」に比べ不安や不満を持っている人が多いことがうかがえます。不安・不満の内容はすべての種別で『給料が安い』が最も多くなっています。また、「身体」では『毎日働くことができない』とともに『通勤するのが困難である』、『職場の施設や設備が整備されていない』が上位を占めています。

問 あなたは、現在の仕事について不安や不満がありますか。(SA) 『障がい者』問 28



問 それは、どのような不安・不満ですか。(MA) 『障がい者』問 29



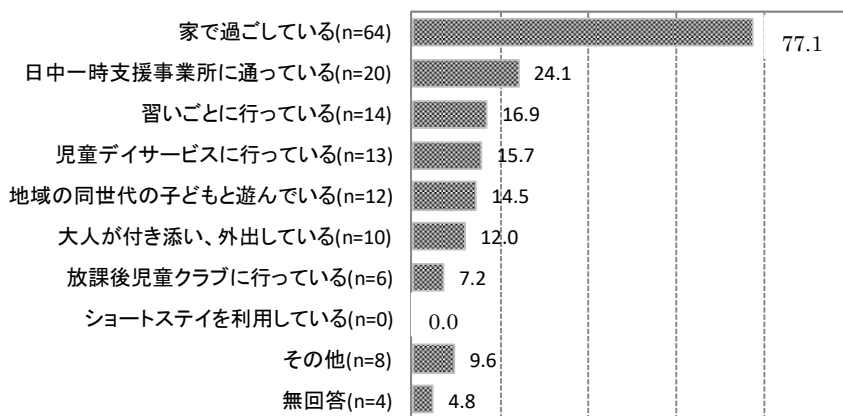
通園・通学に関することについて（障がい児調査のみ）

- 現在の長期休業中や放課後の過ごし方については、約8割が『家で過ごしている』と答えています。障がい種別でみると、「身体」、「精神」では『家で過ごしている』と答えた人が9割前後に上っています。
- 長期休業中や放課後の活動の希望については、約4割が『家で過ごしたい』と答えている一方、『地域の同世代の子どもと遊びたい』、『大人が付き添い（ガイドヘルパーなど）、外出したい（映画・プールなど）』が25～30%前後に上っており、同世代との関わりや家の外での活動を希望している児童も多いことがうかがえます。障がい種別でみると、すべての種別で5割前後が『家で過ごしたい』と答えている一方、「身体」、「精神」では5～6割が『地域の同世代の子どもと遊びたい』と答えています。また「身体」では『大人が付き添い（ガイドヘルパーなど）、外出したい（映画・プールなど）』も5割に上っています。

問 あなたは、現在、長期休業中や放課後をどのように過ごしていますか。(MA)

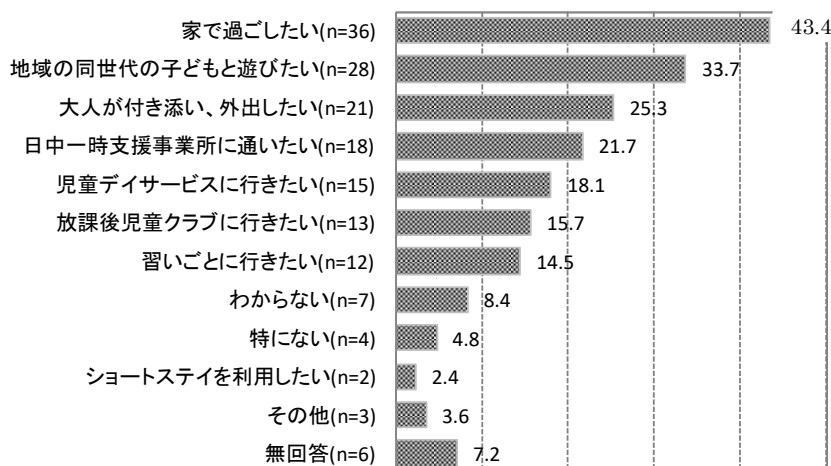
『障がい児』問 16

N = 83



問 あなたは、長期休業中や放課後の活動について、どのように過ごしたいと希望していますか。(MA) 『障がい児』問 17

N = 83



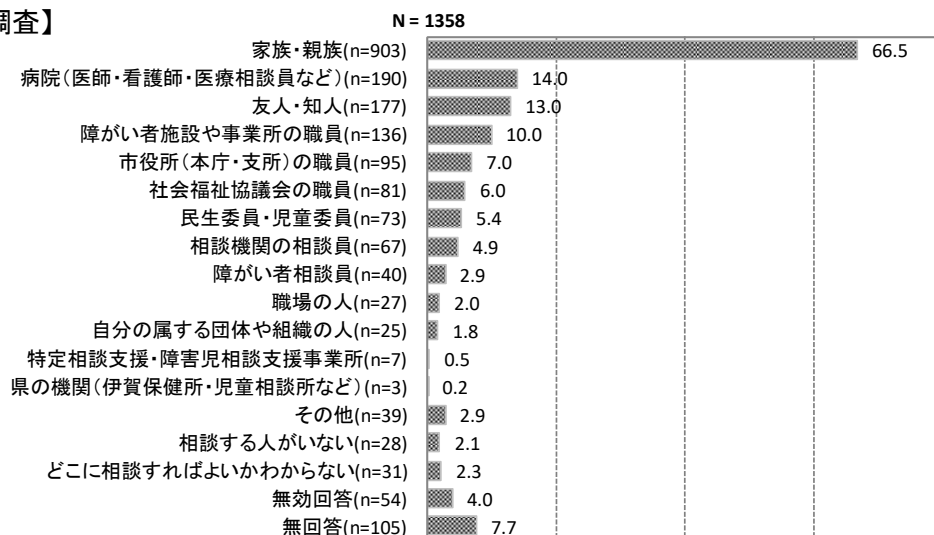
福祉サービスの情報や相談に関することについて

- 「障がい者」では、『家族・親族』が最も多く6割を超えています。次いで、『病院（医師・看護師・医療相談員など）』、『友人・知人』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も多くなっています。また、「身体」では『友人・知人』、『病院』、知的では、『障がい者施設や事業所の職員』、『相談機関の相談員（伊賀市障がい者相談支援センターなど）』、「精神」では『病院』、『友人・知人』、『障がい者施設や事業所の職員』と続いています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も多く、『保育所・幼稚園や学校の先生』、『友人・知人』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も多くなっています。

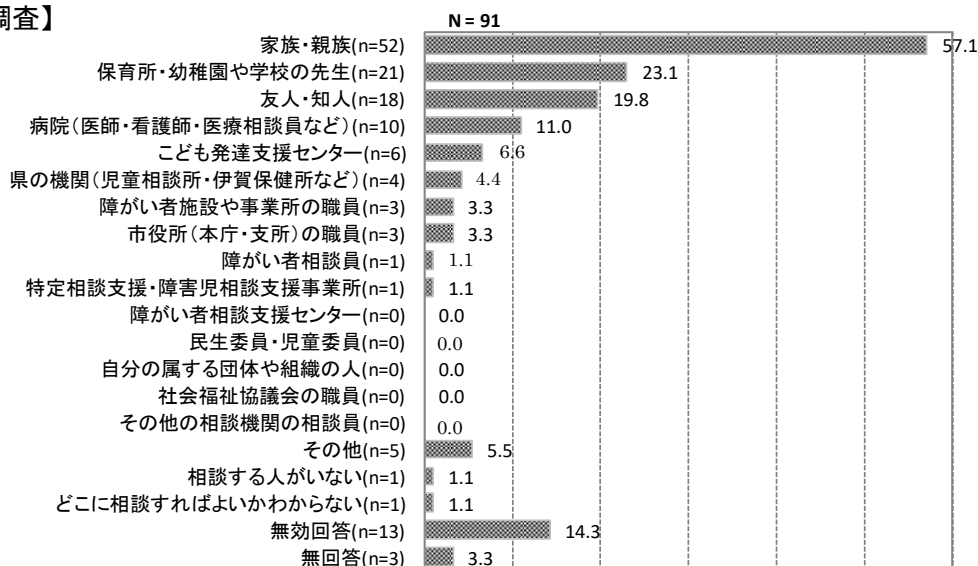
問 あなたは、困ったことや相談したいことがあるときに誰に相談されますか。(MA)

『障がい者』問 33 『障がい児』問 19

【障がい者調査】



【障がい児調査】



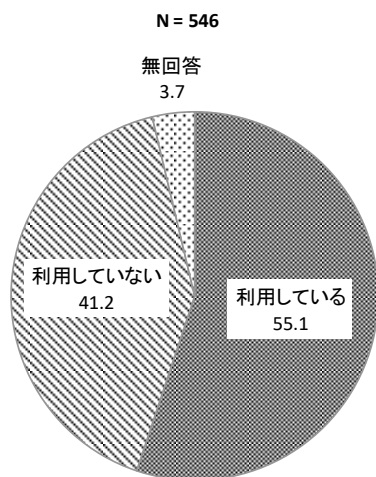
福祉サービスに関することについて

- 「障がい者」では、約4割が『利用していない』と答えています。理由としては、約6割が『必要がない』と答えている一方、『利用の仕方がわからないから』、『どのようなサービスがあるか知らないから』、『利用したい種類のサービスがないから』と答えた人も1割前後います。
- 障がい種別でみると、「身体」、「精神」で4割前後が『利用していない』と答えている一方、「知的」では約7割が『利用している』と答えています。利用しない理由としては、すべての種別で『必要がない』が最も多くなっています。また、「知的」、「精神」では、『利用したい種類のサービスがないから』が比較的多くなっています。
- 「障がい児」では、約4割が『利用していない』と答えています。理由として、約半数が『近くにサービスを提供できる事業所がないから』を選び、最も多くなっています。次いで、『必要がない』、『利用したい種類のサービスがないから』、『送迎がないから』がそれぞれ約2割で続いています。
- 障がい種別でみると、利用していない理由として、「身体」では『必要がない』、「知的」、「精神」では『近くにサービスを提供できる事業所がないから』が最も多くなっています。

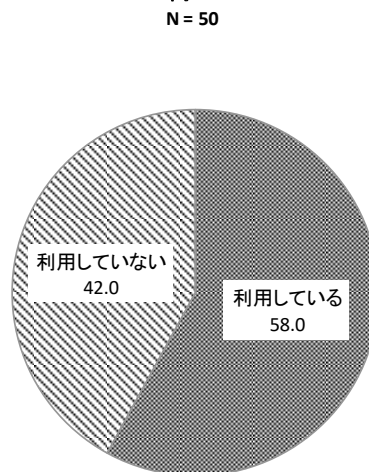
問 あなたは、(障害児通所支援及び)障害福祉サービスを利用していますか。(SA)

『障がい者』問 36 『障がい児』問 22

【障がい者調査】



【障がい児調査】

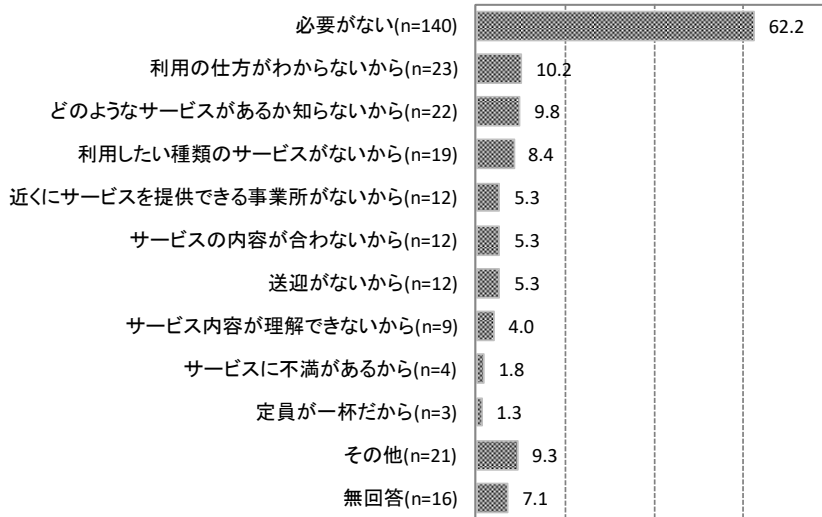


問 なぜ障害児通所支援または障害福祉サービスを利用していないのですか。(MA)

『障がい者』問 38 『障がい児』問 23

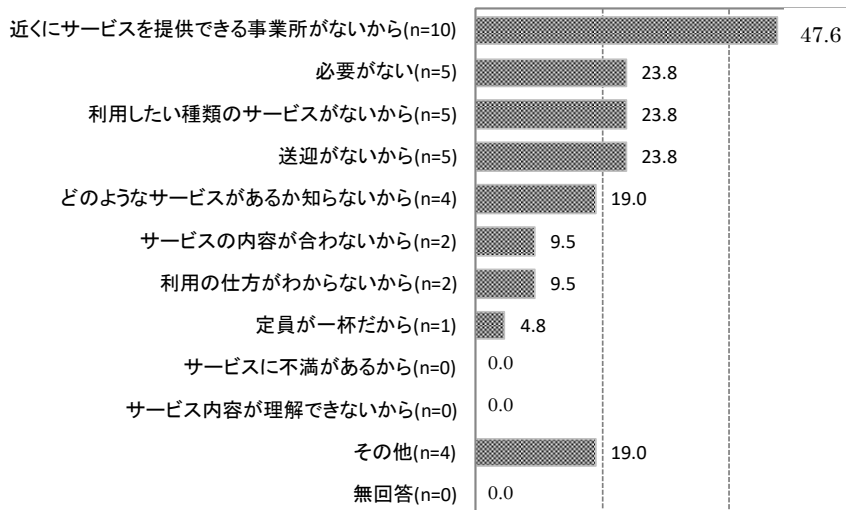
【障がい者調査】

N = 225



【障がい児調査】

N = 21



災害時のことについて

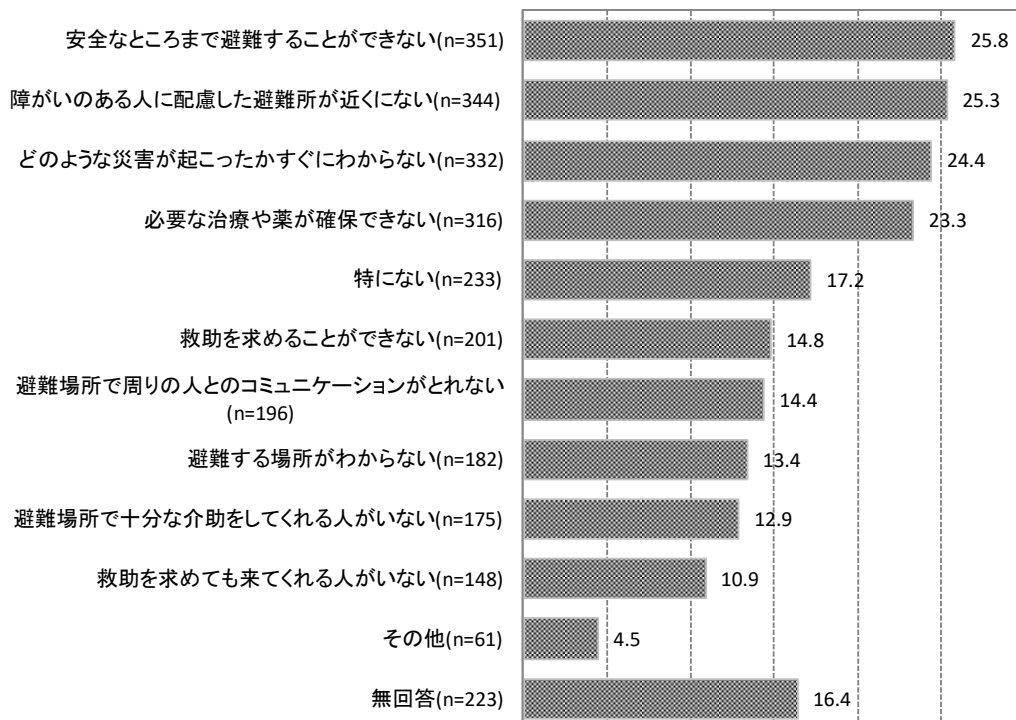
- 「障がい者」では、『安全なところまで避難することができない』、『障がいのある人に配慮した避難所が近くにない』、『どのような災害が起こったかすぐにわからない』、『必要な治療や薬が確保できない』がそれぞれ25%前後で多くなっています。
- 障がい種別でみると、「身体」で『安全なところまで避難することができない』、「知的」で『どのような災害が起こったかすぐにわからない』、「精神」で『必要な治療や薬が確保できない』がそれぞれ最も多くなっています。次いで、「身体」では『障がいのある人に配慮した避難所が近くにない』、「知的」、「精神」では『避難場所で周りの人とのコミュニケーションがとれない』と続き、避難および避難場所についてそれぞれ不安を持っていることがうかがえます。

問 火事や地震などの災害が発生したときに、あなたはどのようなことが不安ですか。

(MA) 『障がい者』問 42

【障がい者調査】

N = 1358



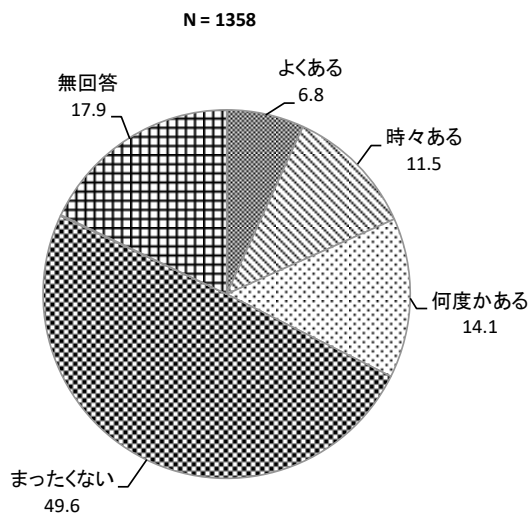
障がいのある人への正しい理解やユニバーサルデザインについて

問 あなたは、日常生活で、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(SA)

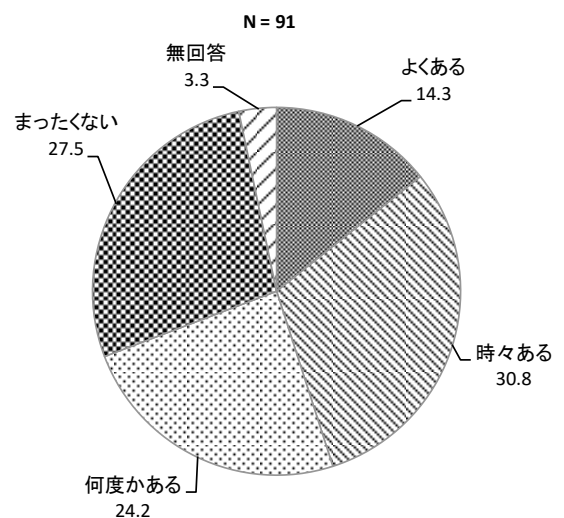
『障がい者』問 46 『障がい児』問 30

- 「障がい者」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』と答えた、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が約3割となっています。障がい種別で見ると、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』と答えた、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が「知的」、「精神」で、ともに55%前後に上っています。
- 「障がい児」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』と答えた、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が約7割に上っています。障がい種別で見ると、「精神」では『よくある』、『時々ある』、『何度かある』と答えた、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が100%となっています。

【障がい者調査】



【障がい児調査】

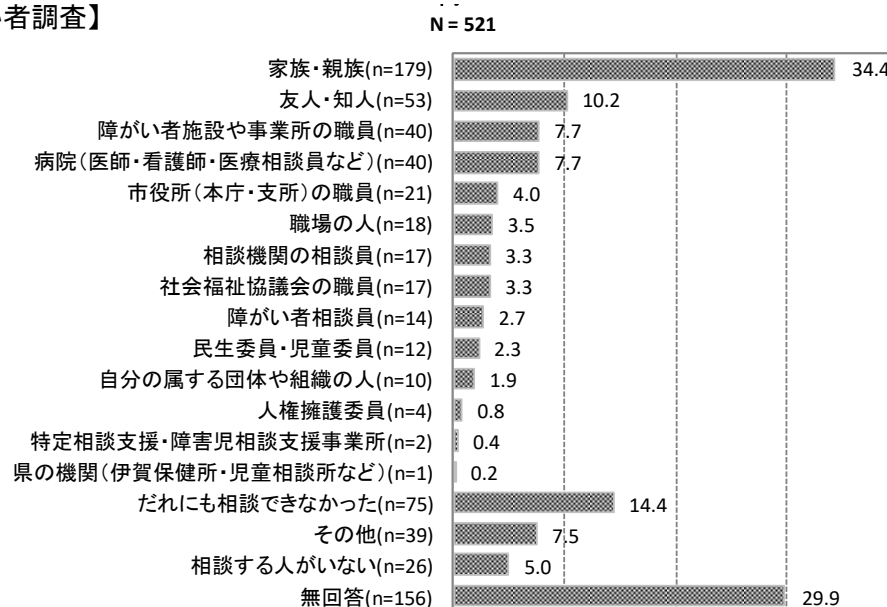


問 その時にだれに相談しましたか。(MA)

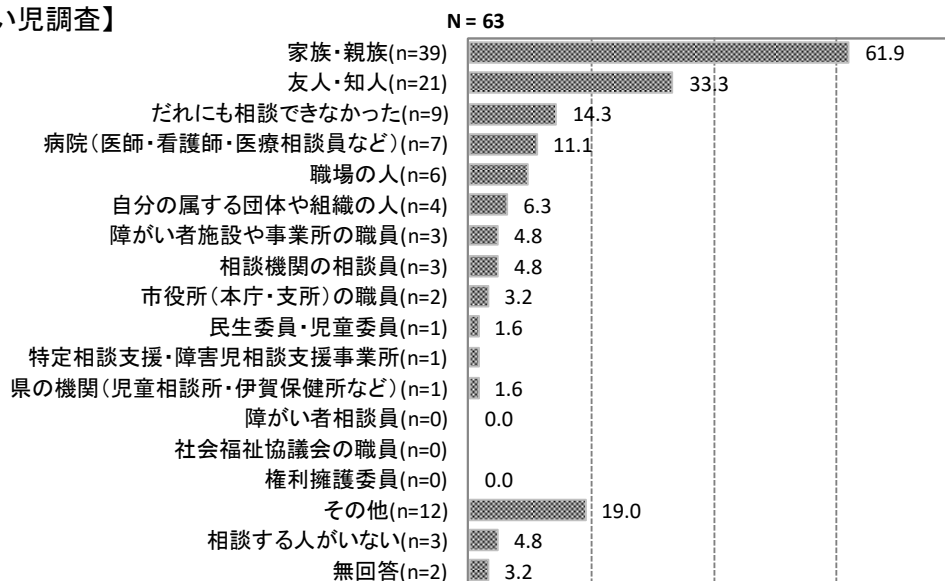
『障がい者』問 49 『障がい児』問 31

- 「障がい者」では、約 35%が『家族・親族』と答え、最も多くなっている一方、『だれにも相談できなかった』が約 15%で続いています。また、『相談する人がいない』と答えた人も 5%います。障がい種別でみると、「身体」では2番目に、「知的」、「精神」ではそれぞれ3番目に『だれにも相談できなかった』が多くなっています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も多く、『友人・知人』と続く一方、『だれにも相談できなかった』も約 15%となっています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』、『友人・知人』と続く一方、「知的」、「精神」では 15～20%前後が『だれにも相談できなかった』と答えています。

【障がい者調査】



【障がい児調査】



将来の暮らしや必要な障がい者施策について

- 「障がい者」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も多く、次いで『障がいのある人への理解を深める福祉教育や広報活動の充実』、『ホームヘルプサービス、短期入所などの在宅福祉サービスの充実』と続いています。障がい種別でみると、「身体」、「精神」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も多く、「知的」では『ケア付き住宅やグループホームなどの住まいの場の確保』が最も多くなっています。
- 「障がい児」では、『障がい児療育、教育の充実』が最も多く、『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』、『障がいのある人への理解を深める福祉教育や広報活動の充実』と続いています。

問 あなたは、今後伊賀市が障がい者施策を充実させるため、どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(MA)

『障がい者』問 54 『障がい児』問 36

【障がい者調査】

N = 1358



【障がい児調査】

N = 91

